



Asia Youth Leaders

アジア ユースリーダーズ
2021 Online
実施報告書

アジア ユースリーダーズ 2021（第12回）

平素より、公益財団法人イオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。標記の件につき、下記の通り、ご報告を申し上げます。

記

【1】事業目的：

「アジア ユースリーダーズ」は、アジア各国の高校生が、共通の社会問題をテーマに、英語を共通言語として視察や専門家によるレクチャーの後、議論を重ね、解決策を提案するプログラム。各国の異なる価値観を持つ学生たちが、自分とは違う考え方や意見に対する理解を深め、視野を広げ、次世代を担う若きリーダーを育成することを目的とする。

【2】プログラム趣旨：

現在、地球温暖化に伴う気候変動に対し、その原因となる温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けたさまざまな取り組みが、世界各地で進められているが、私たちのいのちを繋ぐ「食」に関わる事業活動や食生活が、温室効果ガスの発生源の一つになっている。

今年から3年間「脱炭素社会の実現に資する持続可能な食の未来づくり」を主題とし、年度別のプログラムを実施していく。1年目となる本年は、食品ロスの削減に着目し、本プログラムを実施。

プログラムを通じ、食品ロスが引き起こす問題点を高校生たちに把握させ、削減に向けた打開策について議論し、自らの行動に繋げていくことを目指す。

【3】期 間 : 2021年12月20日(月)～22日(水)

【4】形 式 : オンライン(Zoom)

【5】テーマ:「食品ロス削減の視点で考える食の未来づくり」

【6】参加者:	カンボジア	7名	ラオス	7名	
	中国	7名	マレーシア	7名	
	インドネシア	7名	タイ	7名	
	日本	23名	ベトナム	7名	計 72名

【7】プログラムの内容

12月20日(月) 基調講演、オンライン視察、実態講演、ディスカッション

➤ 基調講演 「グローバルな視点から見た食品ロスに関する現状、課題について」

講師 食品ロス問題ジャーナリスト

株式会社office 3.11 代表取締役 井出 留美 氏



↑ 講演の様子

講演内容: ①食品ロスと廃棄物の概念、違い、環境や経済への影響

②食品ロスと廃棄物を減らすには、どんなことができるか

- ・自分の感覚でテストし、食品を無駄にしない
- ・空腹時に買い物に行かない、買いすぎない
- ・賞味期限に近い食品、規格外の食品を買う
- ・3Rの優先順位 Reduce⇒Reuse⇒Recycle

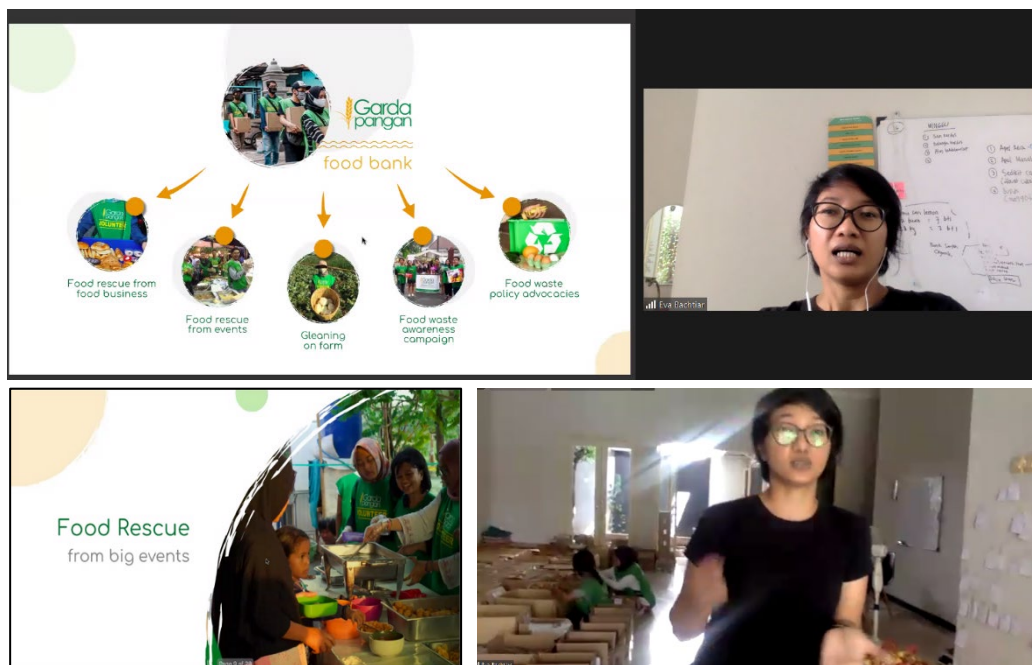
③技術を活用した好事例の紹介

- ・野菜や果物を長持ちさせる新しい技術の応用
- ・生ごみの再利用(肥料やバイオガス、再生エネルギーへ)

➤オンライン視察① ガルダ パンガン (インドネシア)

「食品ロスや廃棄物になっていた余剰食品を活用し、貧困と飢餓を削減する取組」

ガルダ パンガン 創設者兼CEO. Eva Bachtiar(エヴァ バチター)氏

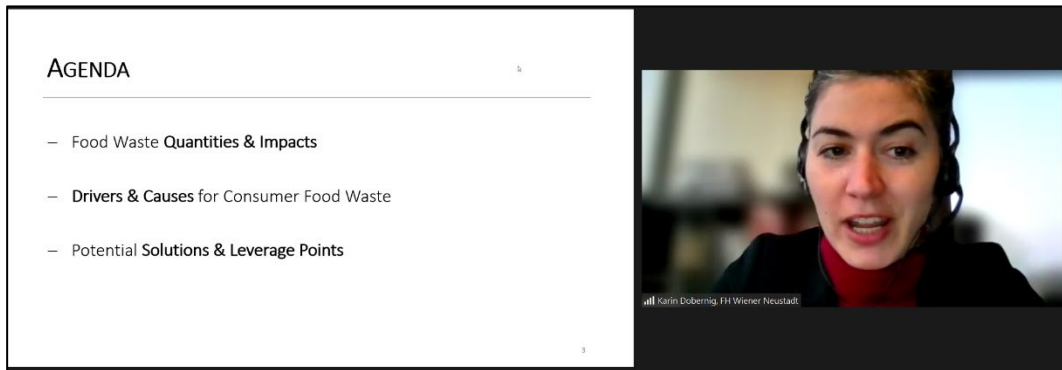


↑取組内容の紹介および作業場の様子

- 取組内容:
- ①食品ロス・廃棄物削減と飢餓救済が二つの大きなゴール
 - ②企業、農場や団体からの余剰食品を食に困っている人に分配
 - ③食品廃棄物に関する活動、政策提言、教育ワークショップを実施
 - ④見た目の悪い青果物を通常小売価格の25%~70%引きで販売したり、ジュースやスナックに変え、ビジネス、寄付活動を行う
 - ⑤食品分配活動を行う際、プラスチック容器を使わないようにしている

➤実態講演 「消費者の日常生活における食品ロスの問題点について」

オーストリア ウィーン・ノイシュタット応用科学大学 サステナビリティ研究所
所長 Karin Dobernig (カリンドベルニグ)氏



↑ 講演の様子

講演内容: ①食品廃棄物の量と影響

②発生要因: 経済的要因、市場要因、社会的要因

③日常生活における食品の扱い方、食事計画、食材の保存術

④廃棄物削減対策

- ・法律や規制の整備、食品安全基準の見直し
- ・消費者の知識向上と意識改革を図るための教育キャンペーン
- ・商品パッケージの工夫、サイズの多様化、テクノロジーの応用



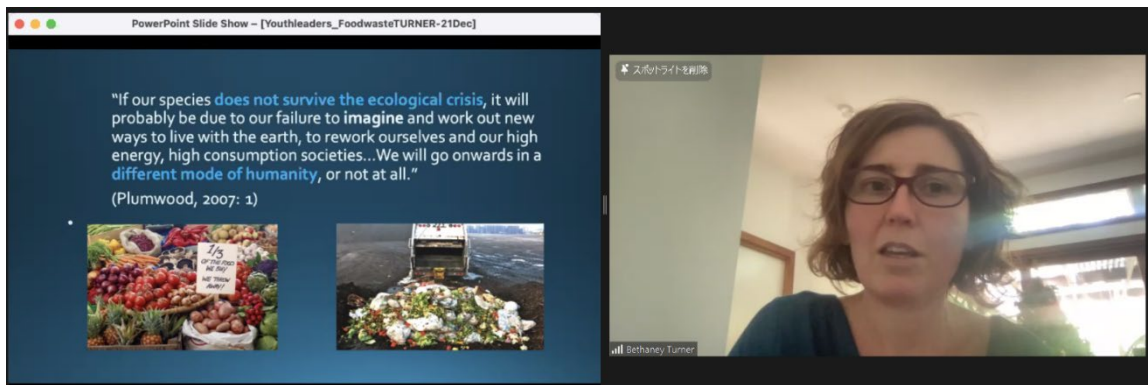
↑ 質疑応答の様子

↑ ディスカッションの様子

12月21日(火) 啓発講演、オンライン視察、ディスカッション

➤ 啓発講演 「未来に向け、食品ロスの改善から脱炭素社会への実現について」

オーストラリア キャンベラ大学 芸術デザイン学部 創造文化研究センター
准教授 Bethaney Turner (ベサニー ターナー) 氏



↑ 講演の様子

講演内容: ①オーストラリアの食品ロスの現状、政府の取り組み
②食料の権利、フードレスキューの役割
③都市農業とファーマーズ農業による食の再評価



↑ 高校生が真剣に受講している様子



↑ 質疑応答の様子

「Food Rescueのような食品ロスキャンペーンを行うことは重要ですか」とのインドネシアの高校生からの質問に、「食品ロスを減らす責任があるのは、Food Rescueだけでなく、食品を提供する側でもあることを認識する必要がある。」と回答した。

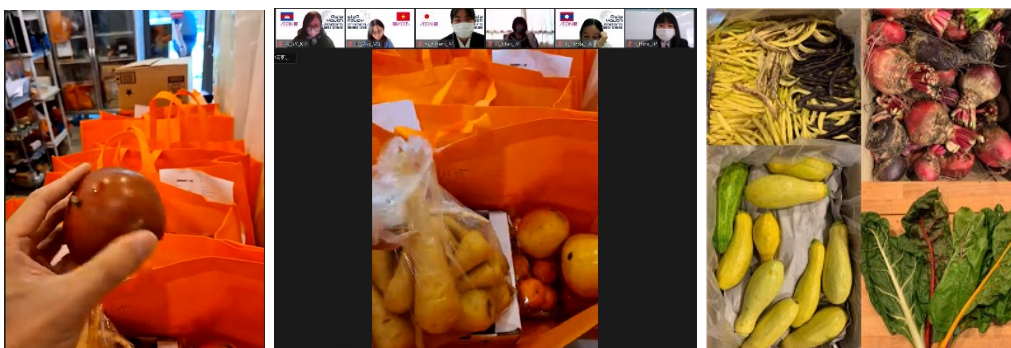
➤ オンライン視察② アグリーフード (シンガポール)

「傷ついた食品の再利用など、生産側で生じる食料廃棄の問題解決に関する取組」

アグリーフード ゼネラルマネージャー Sean Goh (ショーン ゴー) 氏



↑ 講演の様子



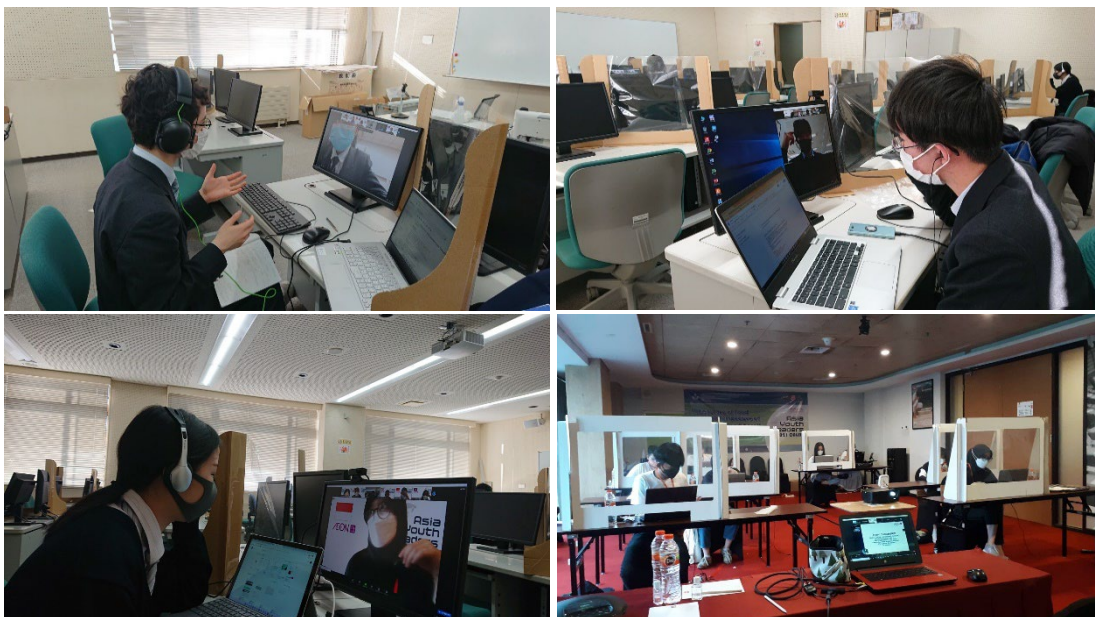
↑ 傷ついた青果物の再利用について

- 取組内容: ① 傷ついた食品を仕入れ、市場価格より25%~40%ほど安く販売
 ② ワークショップを通じ、食品エコシステムの知識を消費者へ共有
 ③ 食品ロス削減に向け、地域のネットワークの構築



↑ 質疑応答の様子

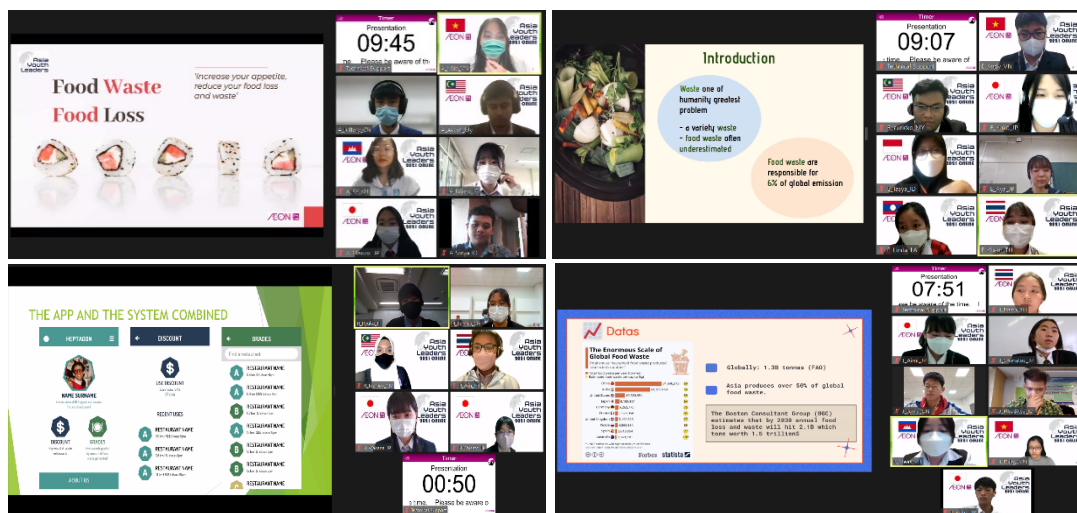
「私たちは品質の良い商品を望んでいますが、この考えについてどう思いますか？」とのベトナムの高校生の質問に、「お客さまの考え方を強制することはありません。全体の持続可能性の考え方は、自ら取り入れなければなりません。多くのお客さまが、毎日私たちから購入しているわけではありませんが、数日に1回、または月に1回でも効果があります。」と回答した。



↑ チームディスカッションの様子

12月22日(水) 成果発表、行動宣言、クロージング

→ 成果発表の様子



↓ 各チーム発表後に、講評者がコメントする様子(*写真右下は、講評者)



講評者: 総合地球環境学研究所
FEAST プロジェクトリーダー、准教授
Steven McGreevy (スティーブン マックグリービー)氏



講評者: ガルダ パンガン創設者兼CEO.
Eva Bachtiar (エヴァ バチター) 氏

➤各チーム発表内容(概要)

■チームA スペシャル メソッド(特別な方法)

スペシャル メソッド(SPECIAL METHOD)とは、人々が食べ物や飲み物を一般的にどのように扱うべきかを示した方法であり、現代のライフスタイルにフィットするコンセプトである。「SPEC」と「IAL」という2つのパートに分かれ、それぞれに別名があり、以下の英単語の頭文字から構成されている。

「SPEC」:(1) SAVE(救う)、(2) PROCESS(プロセス)、(3) EAT(食べる)、
(4) COMPOSE(構成する、組み立てる)

「IAL」:(1) INNOVATIVE(革新的な)、(2) AFFORDABLE(手頃、良心的な)
(3) LEARNABLE(学習できる)

■チームB 人々の意識を変える

食品廃棄物に対する意識を高め、余剰な食品を管理することにより、人々の意識を変えることを目標とする。学校でのキャンペーンやアプリを提案する。

■チームC 教育

知識がなければ、誰も助けられない。地球温暖化やプラスチック汚染に限らず、人類にとってこの緊急課題に対し、まずは教育することが必要。

■チームD イオン5%計画

政府が小売業者に対して、扱っている食品ごとに利用計画を立てることを義務づけること。この計画では、売れ残る可能性を考慮しつつ、食品廃棄物の総量を5%以下に抑えるという内容を示した。

■チームE シンプルな方法で、食料を賞味期限切れにさせないようにしよう

アプリの機能を活用し、食品廃棄物を最小限に抑える。

アプリ機能:

- (1) ユーザーが食品の賞味期限を確認できる
- (2) 食品が腐る前に通知を受け取ることができ、寄付するか、消費するかのオプションを選ぶことができる
- (3) 最先端の機械学習機能を使い、各個人向けのアドバイスを提供する

■チームF 食の未来

テクノロジーを活かし、より広いターゲットに対し、流通業者と消費者の双方にとって余剰食糧のやり取りが簡単にできるようにする。

具体的には、提供者と受取人が直接取引できるアプリを利用することで、実用的であるだけでなく、食品取引のアクセシビリティを向上させる。

■チームG 食品廃棄物/食品ロスを減らすアイデア

人々の意見を取り入れ、啓蒙(教育)を行い、エコ酵素や水耕栽培を活かし、将来の食品廃棄物/食品ロスを防ぐ。

■チームH 経済的観点からの食品ロスと食品廃棄

(1) レストランやスーパーマーケットが無駄にする食品の量に応じ、警告するようにランク付けを行う評価システムの導入

(2) 食品廃棄物を減らすために、食事の量を調整するアプリを導入

■チームI 農業という切り口で食品廃棄物・食品ロスの問題に取り組む

(1) 持続可能な農業の実現(スマート農業AI技術)

(2) 消費者に農家から直接購入するよう促す(集中型プラットフォームの構築)

(3) 適切な貯蔵設備の導入(例:太陽光で食物を乾燥させること)

(4) オンラインプラットフォームの利用

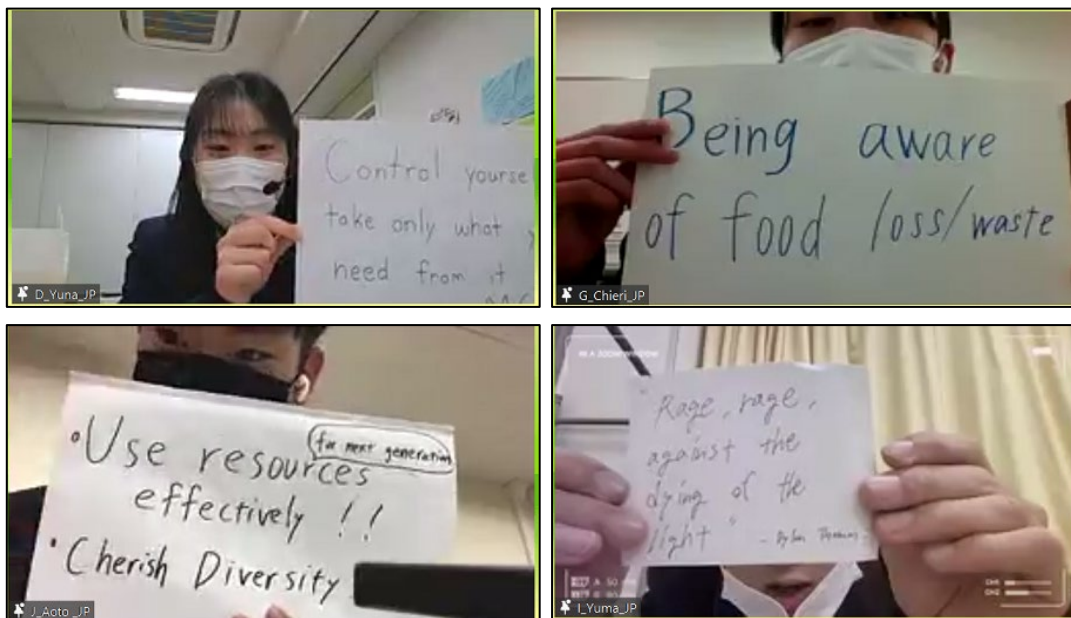
(5) 農家に必要に応じた注文をする。過剰生産による食品廃棄物を削減

(6) NGOや政府と提携し、ファーマーズマーケットを利用した「割引」の提供

■チームJ オンラインコミュニティ食品提供システム

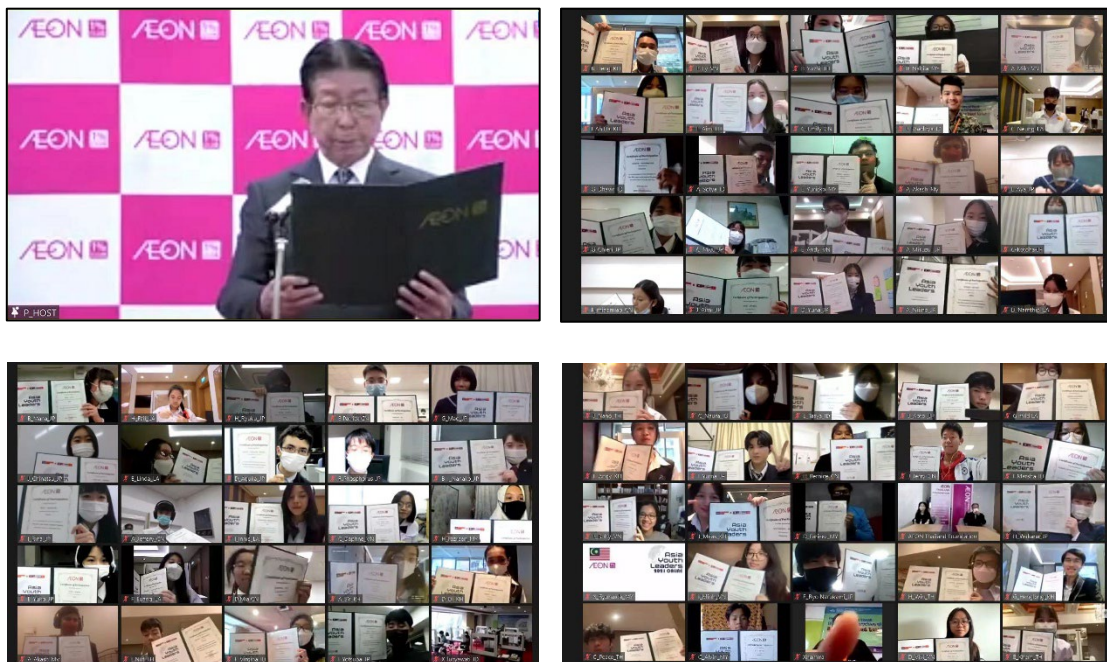
ユーザーが小さなコミュニティで食材を共有できるようにすることで、食品廃棄物の削減につながるアプリを開発する。ユーザーはアプリを使えば、必要な食材を要求したり、また、食材を他人に提供することもできる。人々はアプリを使用することにより、余分に購入することなく必要な適量の食材を受け取ることができる。

➤参加者より行動宣言



↑各参加者より行動宣言を発表する様子

➤クロージング 参加証明書授与



↑プログラム参加証明書を手に記念撮影する各国高校生

(※森理事長より、証明書の読み上げを実施)

【8】参加高校生の声(アンケートより抜粋・敬称略)



(カンボジア)



このプログラムに参加する前は、食品ロスや廃棄物、食品の未来について、多くの知識を得ることができ、英語のスキルも向上できると思っていましたが、正直なところ、素晴らしいプログラムから期待以上のものを得ることができました。他の国のメンバーとのコミュニケーションの取り方、講師から食品ロスや廃棄物、また新しい世代でリーダーになる方法などを学びました。

(Prek Leap High School of New Generation School)



(中国)



食品保存の知識と環境保護について学びたく、このプログラムに参加しようと思ったのは、9月に先生から言われた時です。食品の廃棄やロスを防ぐ方法をいくつか学びました。また、チームワークの大切さも分かりました。これから、自分の周りの人たちに、食品ロスや廃棄が世界的に深刻な問題であることを伝え、食品を無駄にしないよう伝えていきたいと思います。

(天津泰達第一高校)



(インドネシア)



食品廃棄物やロスの問題について学び、社交性や論理的思考、チームワークといったことを学ぶことができると期待していました。他の生徒が持っている別の視点を見ることができたのは驚きでした。そして、将来はソフトエンジニアになりたいので、フードロス&廃棄物を減らすためのアプリを作りたいです。

(SMAN 4 Tangerang)



(日本)



海外のフードロス事情やフードレスキューを学べ、食べ物を育てるのに、2600ギガリットルの水が使われていて、それが無駄になっていることに驚きました。チームメンバーは、みんな親切で、分からないことを教えてくれたおかげで、いい発表ができるようになりました。アジアユースリーダーズを通して、食品ロスの現状を知ることができ広い見識につながりました。

(石川県立金沢泉丘高等学校)



(ラオス)

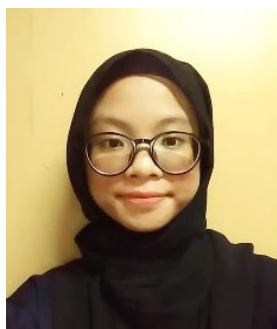


海外の生徒と一緒にグループワークをすることで、個々人が持っている視点の違いを共有することができました。このプログラムから得たインターネット上の経験や知識を、自分の国の食品廃棄物やロス危機を解決するための解決策の普及に役立てることで、将来的により良い方向に進むことができると思います。

(Vientiane Secondary School)



(マレーシア)



食品廃棄物や食品ロスは、私の国では非常に重要な問題ですが、誰もが知っているわけではないので、もっと学びたいと思います。また、他の国からの新しい友人に出会い、彼らから学びたいと思いました。英語が母国語ではありませんが、何とかやりくりできました。グループディスカッションでは、お互いの意見を尊重し、受け入れることを学びました。食を大切にし、より良い未来を創造する人間になりたいです。

(SMK Sultan Muhammad Shah)



(タイ)



チーム全員が、必ずしも同じ視点を持っているわけではありませんが、心を開き、積極的にお互いの話を聴き、肯定的な言葉を使うことで、合意に至るまで協力できることを学びました。私の目標は、英語のスキルを向上させ、世界についての知識を広げることです。自分の経験、知識や能力を活かし、地域や国を動かしていきたいと思います。チームメイトと連絡を取り合い、良い関係を保っていきたいと思っています。

(Patumwan Demonstration School)



(ベトナム)



コミュニケーションリーダーとして、時間管理やタスク管理のスキルをかなり鍛えられたのは確かです。また、リーダーとして、チームメイトとしての自分の弱점에気づくことができました。私の目標は、食生活に気を配ることで、家庭で日々発生する食品ロスやごみの量を減らすことです。今まで出会った仲間たちと連絡を取り合い、いつか実際に会える日が来ることを願っています。

(Tran Dai Nghia High School) 12

【9】参加校一覧

国	学校名
Cambodia	Beltei International School
	Prek Leap High School of New Generation School
	Milky Way School
China	天津泰達第一高校
	天津塘沽紫雲高校
	天津第二十五高校
	天津新華高校
	天津塘沽第一高校
	天津第一百高校
Indonesia	SMA Islam Terpadu Granada
	SMAN 4 Tangerang
	SMAN 7 Tangerang
	SMAN 1 Tangerang
	SMAS Budi Mulia
	SMAN 2 Tangerang
Japan	SMAN 23 Tangerang
	立命館慶祥中学校・高等学校
	石川県立金沢泉丘高等学校
	福井県立高志高等学校
	渋谷教育学園幕張中学校・高等学校
	名古屋大学教育学部附属中・高等学校
	神戸市立葺合高等学校
	広島大学附属福山中・高等学校
Laos	広島県立世羅高等学校
	Vientiane Secondary School
	Vientiane High School
Malaysia	International School of Laos
	SMK La Salle Brickfields
	SMK Sultan Muhammad Shah
	SMK Sri Utama
	SMK Pasir Gudang
	Kolej Datu Patinggi Abang Haji Abdillah
	SMK Taman Indah, Tampin
	SMK Kubang Kerian
Thailand	Triam Udom Suksa School
	Patumwan Demonstration School
	Satit Kaset IP
Vietnam	HaNoi- Amsterdam high school for the gifted
	Viet Duc High school
	Tran Dai Nghia High School For The Gifted
	NGUYEN DU HIGH SCHOOL
	Chu Van An High School
	Le Hong Phong High School for The Gifted
	The Bilingual Canadian International School - BCIS